

『五〇と五〇、一〇〇と〇』

ある国では百人中五十一人の人間が「その国」を憎んだ。

また別のある国では百人中五十一人の人間が「その国」を愛した。

そして二つの国は「その国」を挟んで争いを始めた。

一つは「その国」を殺す為に。

一つは「その国」を守る為に。

では、二つの国々の間にあった違いは何なのか。

置き去りにされた人々の思いは、果たして争いの中に何を見たのか。

自らの国に何を見たのか。

そして挟まれた「その国」は、二つの国々に何を見たのか。

きっとそこには明確なものなんて一つもなかった。

あったのは数々の思いと、時間という無情なきっかけだけだった。

やがて二つの国々は互いに滅んで姿を消し。

残された「その国」も二つに分かれて争い合った。

五十の憎しみと五十の愛しさがぶつかり合って。

いつしか両者も互いに滅び去り、世界から誰もが姿を消したのだった。